

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書の訂正報告書
【根拠条文】	証券取引法第24条の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成18年6月8日
【事業年度】	第84期（自平成16年4月1日至平成17年3月31日）
【会社名】	株式会社アーレスティ
【英訳名】	AHRESTY CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 高橋 新
【本店の所在の場所】	東京都中野区中央一丁目3番1号
【電話番号】	03(5332)6001（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 樋沼 国寿
【最寄りの連絡場所】	東京都中野区中央一丁目3番1号
【電話番号】	03(5332)6001（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 樋沼 国寿
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 1【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

平成17年6月24日に提出した第84期（自平成16年4月1日至平成17年3月31日）有価証券報告書の記載事項の一部に訂正すべき事項がありましたので、これを訂正するため、有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

## 2【訂正事項】

### 第一部 企業情報

#### 第1 企業の概況

##### 1 主要な経営指標等の推移

#### 第2 事業の状況

##### 1 業績等の概要

###### (1) 業績

##### 2 生産、受注及び販売の状況

###### (3) 販売実績

##### 7 財政状態及び経営成績の分析

###### (2) 当連結会計年度の経営成績の分析

#### 第5 経理の状況

##### 1 連結財務諸表等

###### (1) 連結財務諸表

連結損益計算書

注記事項

(セグメント情報)

(事業の種類別セグメント情報)

(所在地別セグメント情報)

(海外売上高)

## 3【訂正箇所】

訂正箇所は\_\_線で示しております。

### 第一部【企業情報】

#### 第1【企業の概況】

##### 1【主要な経営指標等の推移】

(訂正前)

回次	第80期	第81期	第82期	第83期	第84期
決算年月	平成13年3月	平成14年3月	平成15年3月	平成16年3月	平成17年3月
(1) 連結経営指標等					
売上高(百万円)	64,305	61,649	66,376	76,665	96,043

(訂正後)

回次	第80期	第81期	第82期	第83期	第84期
決算年月	平成13年3月	平成14年3月	平成15年3月	平成16年3月	平成17年3月
(1) 連結経営指標等					
売上高(百万円)	64,305	61,649	66,376	76,665	94,967

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

(訂正前)

#### (1)業績

当連結会計年度におけるわが国の経済は、企業収益の改善等を受けて景気は総じて回復基調を示したものの、依然として進まぬ雇用・所得環境や年金問題など将来に対する不安が払拭できぬまま推移しており、個人消費も本格的な回復には至ってなく、不透明な状況のまま推移しました。

このような状況の中で、当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）は、積極的な販売活動を進めるとともに、製造原価低減や業務の効率化などを推進してまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高96,043百万円（前年同期比25.3%増）、営業利益5,597百万円（前年同期比48.0%増）、経常利益4,803百万円（前年同期比54.3%増）、当期純利益2,265百万円（前年同期比22.5%増）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

ダイカスト部門においては、平成15年10月1日に京都ダイカスト工業(株)と合併したこと等により売上高が85,669百万円（前年同期比25.7%増）となりました。京都ダイカスト工業株式会社との合併による売上増加分を除くと当社の主力製品である四輪部品は、自動車メーカー各社の国内販売の伸び悩みを好調な輸出で補われ11.2%の増加となりました。二輪車につきましても9.6%の増加となりました。収益面においては生産性の改善を始めとする原価低減活動を積極的に進めてまいりました。この結果、営業利益は7,208百万円（前年同期比26.4%増）となりました。

< 中略 >

所在地別セグメントの業績は次のとおりであります。

日本

主力製品である四輪部品は主要顧客の自動車メーカー各社の国内販売の伸び悩みがあったものの、売上高は83,719百万円（前年同期比23.9%増）となりました。また、原価低減活動等が寄与し営業利益は6,400百万円（前年同期比23.3%増）となりました。

< 以下省略 >

(訂正後)

#### (1)業績

当連結会計年度におけるわが国の経済は、企業収益の改善等を受けて景気は総じて回復基調を示したものの、依然として進まぬ雇用・所得環境や年金問題など将来に対する不安が払拭できぬまま推移しており、個人消費も本格的な回復には至ってなく、不透明な状況のまま推移しました。

このような状況の中で、当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）は、積極的な販売活動を進めるとともに、製造原価低減や業務の効率化などを推進してまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高94,967百万円（前年同期比23.9%増）、営業利益5,597百万円（前年同期比48.0%増）、経常利益4,803百万円（前年同期比54.3%増）、当期純利益2,265百万円（前年同期比22.5%増）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

ダイカスト部門においては、平成15年10月1日に京都ダイカスト工業(株)と合併したこと等により売上高が84,593百万円（前年同期比24.1%増）となりました。京都ダイカスト工業株式会社との合併による売上増加分を除くと当社の主力製品である四輪部品は、自動車メーカー各社の国内販売の伸び悩みを好調な輸出で補われ11.2%の増加となりました。二輪車につきましても9.6%の増加となりました。収益面においては生産性の改善を始めとする原価低減活動を積極的に進めてまいりました。この結果、営業利益は7,208百万円（前年同期比26.4%増）となりました。

< 中略 >

所在地別セグメントの業績は次のとおりであります。

日本

主力製品である四輪部品は主要顧客の自動車メーカー各社の国内販売の伸び悩みがあったものの、売上高は82,643百万円（前年同期比22.4%増）となりました。また、原価低減活動等が寄与し営業利益は6,400百万円（前年同期比23.3%増）となりました。

< 以下省略 >

2【生産、受注及び販売の状況】

(3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりである。

(訂正前)

事業の種類別セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	前年同期比(%)
ダイカスト部門(百万円)	85,669	125.7
アルミニウム部門(百万円)	3,835	112.9
完成品部門(百万円)	6,538	128.2
合計(百万円)	96,043	125.3

(注) 1～2<略>

3. 本表の金額には、消費税等は含まれてはいない。

相手先	前連結会計年度 (自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
本田技研工業株式会社	11,772	15.4	12,944	13.5
スズキ株式会社	9,100	11.9	10,958	11.4
富士重工業株式会社	8,365	10.9	10,091	10.5
日産自動車株式会社	6,862	9.0	7,467	7.8

(訂正後)

事業の種類別セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	前年同期比(%)
ダイカスト部門(百万円)	84,593	124.1
アルミニウム部門(百万円)	3,835	112.9
完成品部門(百万円)	6,538	128.2
合計(百万円)	94,967	123.9

(注) 1～2<略>

3. 本表の金額には、消費税等は含まれてはいない。

相手先	前連結会計年度 (自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
本田技研工業株式会社	11,772	15.4	12,944	13.6
スズキ株式会社	9,100	11.9	10,958	11.5
富士重工業株式会社	8,365	10.9	10,091	10.6
日産自動車株式会社	6,862	9.0	7,467	7.9

## 7【財政状態及び経営成績の分析】

(訂正前)

<前略>

### (2) 当連結会計年度の経営成績の分析

#### 売上高

売上高は前連結会計年度を19,378百万円上回り、96,043百万円(前年同期比25.3%増)となり過去最高額となりました。増加要因は京都ダイカスト工業株式会社との合併による増加分が7,892百万円(前期は下期分だけが寄与しましたが今期は通期で寄与したことによります。)、自動車関連業界の活況による売上増加分が6,016百万円、株式会社日本精密金型製作所株式会社をはじめ5社の連結子会社化による増加分が2,021百万円、米国市場における日系自動車メーカーの好況による北米売上高の増加分2,412百万円、その他増加分1,037百万円であります。

#### 売上原価、販売費及び一般管理費、営業利益

売上原価は売上高の増加に伴い、前連結会計年度から16,876百万円増加し、82,969百万円(前年同期比25.5%増)となりました。また、売上高に対する売上原価の比率は0.2ポイント増加し86.4%となりました。

売上高に対する売上原価率が悪化した原因としては、旧京都ダイカスト工業株式会社的主力工場であった豊橋工場の生産性が合併初年度である前期よりも改善したものの依然として他工場より劣っており、今期はこの点が通期で寄与したことあります。他工場の原価低減等の効果があったものの吸収しきれずに、結果的に売上高に対する売上原価率が悪化しました。

<以下省略>

(訂正後)

<前略>

### (2) 当連結会計年度の経営成績の分析

#### 売上高

売上高は前連結会計年度を18,301百万円上回り、94,967百万円(前年同期比23.9%増)となり過去最高額となりました。増加要因は京都ダイカスト工業株式会社との合併による増加分が7,892百万円(前期は下期分だけが寄与しましたが今期は通期で寄与したことによります。)、自動車関連業界の活況による売上増加分が5,513百万円、株式会社日本精密金型製作所株式会社をはじめ5社の連結子会社化による増加分が1,449百万円、米国市場における日系自動車メーカーの好況による北米売上高の増加分2,412百万円、その他増加分1,035百万円であります。

#### 売上原価、販売費及び一般管理費、営業利益

売上原価は売上高の増加に伴い、前連結会計年度から15,799百万円増加し、81,892百万円(前年同期比23.9%増)となりました。

<以下省略>

第5【経理の状況】

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結損益計算書】

(訂正前)

区分	注記 番号	前連結会計期間 (自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日)		当連結会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)		
		金額(百万円)	百分比 (%)	金額(百万円)	百分比 (%)	
売上高			76,665	100.0	96,043	100.0
売上原価			66,093	86.2	82,969	86.4
売上総利益			10,571	13.8	13,074	13.6

(訂正後)

区分	注記 番号	前連結会計期間 (自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日)		当連結会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)		
		金額(百万円)	百分比 (%)	金額(百万円)	百分比 (%)	
売上高			76,665	100.0	94,967	100.0
売上原価			66,093	86.2	81,892	86.2
売上総利益			10,571	13.8	13,074	13.8

注記事項

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

最近2連結会計年度の事業の種類別セグメント情報は次のとおりである。

(訂正前)

<前略>

当連結会計年度(自平成16年4月1日至平成17年3月31日)

	ダイカスト 部門 (百万円)	アルミニウ ム部門 (百万円)	完成品部門 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	85,669	3,835	6,538	96,043	-	96,043
(2)セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	1,492	2	1,494	(1,494)	-
計	85,669	5,327	6,541	97,538	(1,494)	96,043
営業費用	78,460	5,091	6,180	89,732	713	90,446

(注) <略>

(訂正後)

<前略>

当連結会計年度(自平成16年4月1日至平成17年3月31日)

	ダイカスト 部門 (百万円)	アルミニウ ム部門 (百万円)	完成品部門 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	84,593	3,835	6,538	94,967	-	94,967
(2)セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	1,492	2	1,494	(1,494)	-
計	84,593	5,327	6,541	96,462	(1,494)	94,967
営業費用	77,384	5,091	6,180	88,656	713	89,370

(注) <略>

【所在地別セグメント情報】

(訂正前)

< 前略 >

当連結会計年度(自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	その他の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業利益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	83,719	11,531	791	96,043	-	96,043
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	666	42	73	782	(782)	-
計	84,386	11,574	864	96,825	(782)	96,043
営業費用	77,986	10,159	755	88,901	1,544	90,446

(注) < 略 >

(訂正後)

< 前略 >

当連結会計年度(自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	その他の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業利益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	82,643	11,531	791	94,967	-	94,967
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	661	42	73	776	(776)	-
計	83,305	11,574	864	95,744	(776)	94,967
営業費用	76,904	10,159	755	87,820	1,549	89,370

(注) < 略 >



【海外売上高】

(訂正前)

< 前略 >

当連結会計年度(自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)

	北米	その他の地域	計
海外売上高(百万円)	11,535	901	12,436
連結売上高(百万円)			<u>96,043</u>
連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	<u>12.0</u>	0.9	<u>12.9</u>

(注) < 略 >

(訂正後)

< 前略 >

当連結会計年度(自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)

	北米	その他の地域	計
海外売上高(百万円)	11,535	901	12,436
連結売上高(百万円)			<u>94,967</u>
連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	<u>12.1</u>	0.9	<u>13.1</u>

(注) < 略 >